

新たな販路開拓進む「龍の瞳」

岐阜県下呂市で生産者大会・栽培技術交流会

品質・食味向上へ研鑽

GAP導入、輸出展開も構想

大粒・良食味の品種として知られる「龍の瞳」(品種名以外のちのち)の種子管理や買い取りの販売を行っている龍の瞳(今井隆社長、岐阜県下呂市)は先ごろ、同市内の市立会館で、2014年度の龍の瞳生産者大会・栽培技術交流会を開催した。当日は、県内各地の龍の瞳生産者組合の生産者中心に約80人が来場。組合定章では、26年度に向けて龍の瞳も配布された。第1部の生産者大会では、25年度の特徴や今年のスゲンールについての説明、優秀組合の表彰などが行われた。また、第2部の栽培技術交流会では、検査等級の解説や苗の選別方法などの現状や問題点の説明、GAPへの取り組みなど品質・食味向上に向けて意見を交換が行われた。

第1部では、はじめに龍の瞳の発芽者でもある今井社長が開会あいさつに立った。高級ブランド米を含めて軒並み値下がりしている米の現状を踏まえて、今年3月末には100店舗近



岩佐英夫氏(左) 今井隆社長(右)

くある関東の大手量販店が期間限定で龍の瞳を販売することも発表。1回100kg以上出荷する予定にある。ほかに、同社は、米国の輸出を視野に入れた取り組みも開始する予定だ。すでに大手通販サイトのアマゾンを通じて間接的に米国内で販売しているが、(JTB)環太平洋経済連携協定(TPP)交渉の進展などで日本の農業が変わっていく中、海外に向けた展開も図っていくことも重要な問題」と訴えた。

続いて飛騨北部組合の岩佐英夫氏が生産者を代表してあいさつ。各地域に龍の瞳を生産する組合ができたことについて「互いの生産者の顔・名前を覚えることができ、栽培に関する意見交換も活発になった」とその利益を強調。岩佐氏は「中核的栽培政策の足しとして、龍の瞳の環境を向上させるが、品質の良いものを作

高山生産組合に優秀賞

第1部では、今井社長「基本的に昨年と変わっていない」と説明。規格価格外Aとしてその他の規格外A(規格外A)は、低農薬栽培コンシール(低農薬栽培)については、買取価格については、



優秀な成績を収めた生産組合を表彰

ものについては「規格外Aとしてその他の規格外A(規格外A)は、低農薬栽培コンシール(低農薬栽培)については、買取価格については、

「生産意欲湧く」 第1部の最後には、「龍の瞳の過去・現在・未来について」をテーマに龍の瞳の出会いや苦しみ、うれしさを語り、声があがった。

収穫遅いほど食味良好

第2部の栽培技術交流会では、生産者が収穫した龍の瞳をサンプルとして検査用シミュレーションを行った。今井社長が解説を交えながら行ったシミュレーションでは、カヌシによる着色や調剤など、同社が実際に査定した等級と今回の査定を比較。その結果、ほとんど

今井社長は、龍の瞳の千粒重と食味の変化についても解説。参加者は、8月8日に出穂した龍の瞳(試験場所：下呂市秋原町田田の龍の瞳研究所)を水田5月13日(田植え)で「36日後」に刈り取

とるを参加者全員で語り合った。参加者から「ほのかに香ばしかった」との感想が聞かれた。今井社長は、水分が千バラつきがあり、補正の必要性があることを前向きにしながらも、食味測定値(調剤)はほぼ一定で、反対にタンパクは減っていき、分析はよければ、より詳しく分析するため、来年はコンシールなど品種との比較も行いたい」と話した。

げんきタネ倶楽部 米穀店の販売 ノベルティ高材に最適! 種類豊富な4タイプ 株式会社種商 URL: http://tanesho.co.jp 2号入リサイズ 0120-583-003

GAPも視野に 龍の瞳が今後目指す方向性として今井社長は、「GAPへの取り組み」も挙げた。今井社長とも龍の瞳の栽培指導を行っている関係者も、「次々くるのはGAP。全国的にありふれた有機減農薬栽培のPRは限界にきている」と話した。これからは「輸出が本格化していくことが予想される中、GAPへの取り組みはますます重要になる」としている。

GAP研修会に参加し、同交流会でGAPの解説も行った来年度生産組合の岩佐英夫氏も、「研修を通じて感じたのは、そんなに難しく考えることはない」ということ。GAPを導入することで経費の削減や社会的信用が得られる。地域のかげがえのない水や畑などの環境を守りながら、次世代の若者があこがれを持つ農業も可能になる」と強調した。



等級検査・品質査定をシミュレーションで経費の削減や社会的信用が得られる。地域のかげがえのない水や畑などの環境を守りながら、次世代の若者があこがれを持つ農業も可能になる」と強調した。